

北陸ブロック母と女性教職員の会

in 越後湯沢



8月19日(日)20日(月)の2日間、新潟県越後湯沢NASPAニューオーターニで「母と女性教職員の会 北陸ブロック集会」が行われました。福井県からは、女性教職員8人、保護者7人、県教組本部2人の計17人が参加しました。



第3分科会
提案する治部さんと記録の榎尾さん

1日目 全体会

講演「生きづらさを生きていく
～格差社会と人権、そして憲法と～」
作家 雨宮処凛さん

会に先立って原水爆禁止世界大会の曲「青い空は」を、参加者全員で歌いました。雨宮さんの講演では、「学校では『人に迷惑をかけてはいけない』を強調しすぎ。そうではなく『人に迷惑をかけてもいいから人の迷惑に寛容になろう』と言ってほしい」という言葉が印象的でした。夜の交流会では、福井の参加者全員でハピネスダンスを踊り、国体をアピールしました。



雨宮処凛さん

2日目 分科会

6つの分科会に分かれ、提案と協議が行われました。

第3分科会「学校・家庭・地域、食と健康」では、南条小分会の治部香代子さんが「PTAと連携した地域・家庭への情報発信」というテーマで、「親子ふれあいクッキング」のとりくみを中心とした提案をしました。



第4分科会
コーディネーターの高木さんと佐々木さん



第6分科会
コーディネーターの木村さんと大崎さん

【参加者の感想】

- ・グループエンカウンターでのミニ体験をさせていただきました。初めてお会いする先生、保護者の方とで最初はドキドキし、入学当初の子どもたちの気持ちが分かりました。(保護者)
- ・子どもたち全員が苦しめない状態で生きていてほしいと思いました。生きづらさを感じて苦しんでいる人たちの話を聞くのはつらかったで

すが、現実を知ることには大事だと思いました。

(教職員)

- ・「ノーゲームデー」のとりくみについて、ゲームを減らすことが最終目標ではなく、子どもたちにぬくもりを与えることが健やかに育てることにつながり、ゲームの弊害をなくすことにつながるということに気がつきました。

(教職員)